



学校だより

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第 22 号

令和 3 年 2 月 12 日 発行
文責 校長 宮地 浩幸

給食週間

1月26日(火)の給食前に、給食調理員さんや給食準備を手伝ってもらっている用務員さんに子ども達からお礼を伝える会が催されました。毎日のおいしい給食にご努力されていることに頭が下がる思いがします。給食は食育指導の面や勉強をしっかり行うためのエネルギー源として、とても大切なことは言うまでもありません。子ども達も毎日おいしい給食を作っていただいていることに感謝し、お礼の言葉を述べメッセージカードを送りました。子ども達が食の大切さを考え、食べ残しが無いように心がけてくれることを期待します。



また、コロナ禍において感染予防の観点からも、十分な栄養を摂ることは大切です。新型コロナウイルスに負けない体を作るためにも、学校給食に限らず、ご家庭でも好き嫌いはしない、暴飲暴食は慎むなど適切な食育指導をお願いします。

全国トップテン

本校中学1年生が「北方領土に関する全国スピーチコンテスト」で、全国トップテンに選出されました。島に育ち、島を愛するからこそ生まれた内容だったと思います。何よりも、再三学校が数値的にもよくなっているとこれまでの「学校だより」で紹介してきましたが、今回の結果もまさにそれを裏付けるものとなりました。学力やスポーツの功績だけではなく、心の育成も向上していることがその結果から反映された気がします。小中合わせて、全児童生徒が6名しかいない中で、佐賀県の代表になり、全国の優秀な作品と比較して、上位10というのはとてもすごい事だと思います。

それでも、このようなたいへんすばらしい成果を残したときにこそ、気を引き締めることが大切です。加唐小中学校の名を全国に知らしめることができたことに誇りを感じるとともに、私たち自身、今後、自己の行動や考え方に十分責任を持たなければならないということを実感しました。子ども達の更なる発展を期待します。



高島小学校を訪問しました。

2月4日（木）に、小学生4名と職員3名で高島小学校を訪問しました。これは、合同スピーチでテレビ会議システムを介し高島小学校と定期的に交流を行っていますが、今回は実際に訪問することで一層のコミュニケーション能力の育成に役立てようと思い企画したものです。

比較的早く高島に着いたせいもあり、高島小学校の子ども達が港までお迎えに来てくれる予定でしたが、学校へ行くまでの途中で彼らに出会いました。学校へ着いたら、開会のセレモニーをしていただき、普段はテレビ越しにしか見ない子ども達同士が、直接親睦を深める様子は、実際に会って話をする事で、感動を伴った会話というものを実感できたようです。その後、高島の蜜蝋と加唐島の椿油を使って、リップクリームを作る体験を一緒に行いました。子ども達がお土産として持って帰りましたので、出来栄は実感できていると思いますが、大変すばらしいものでした。その後、給食を一緒に食べ（大変おいしい給食でした。）、午後からは、小グループに分かれて高島を散策しました。もちろんチームは、両校で交流ができるように、混成されたメンバーです。職員も同様に混ざって、子ども達と一緒に島内を散策しました。有名な宝当神社も行きました。高島は加唐島と大きく地形が異なり、比較的平地が多いことに驚きました。

今後も、高島小学校との交流を続けていき、互いに励まし合い良好な関係を築いていけることを切に願います。次回、2月19日（金）は高島小学校の児童を加唐小学校で迎え入れる予定です。



2月の合同集会

毎月恒例で行っている合同朝会を2月3日（水）の午後に行いました。本当は朝（午前中）にする予定でしたが、調整がつかず午後の開催となりました。今回「尊敬する人は誰ですか？」という問いかけを子ども達にすることから始めました。校長が最も尊敬する人はアインシュタイン博士です。自然科学の世界では、ニュートンと並ぶ大天才です。世界中で知られる舌を出したおちゃめな写真を見ると見おぼえがあると思います。アインシュタインは原子力発電の基本原則を考えました。簡単に言えば、小さなものから莫大なエネルギーを生み出すことを考えついたのです。原子力発電そのものについてはいろいろな意見があると思いますが、アインシュタインの考えたことが有益に使われれば人類の発展に貢献します。自然科学は本来そうあるべきです。しかし、原子力発電の基本原則は原子爆弾を作り出すこともできるのです。このことにアインシュタインは悩み、彼は平和を希求し行動しました。今回、子ども達に伝えたかったのは、この例から見れるように、物事にはいい面と悪い面が表裏一体についていることが多々あるということです。視点を変えて物事を見る習慣をつけておくことは大切です。加唐島の学校を卒業して、子ども達は幾多の苦難に出会うと思います。その時、視点を変えピンチをチャンスに変えることができることが大切です。卒業を控える子ども達には是非伝えたかったことです。

